第３回文京区アカデミー推進協議会

日時：平成２４年１２月１７日（月）

午後６：３０～８：３０

場所：文京シビックセンター２４階

区議会第１委員会室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

第３回　アカデミー推進協議会会議録

（敬称略）

「委員」

会　長　水越　伸
副会長　久松　佳彰
委　員　青木　和浩
委　員　野口　洋平
委　員　桝田　慶輝
委　員　楢崎　華祥
委　員　白井　圭子
委　員　松本　泰之
委　員　森岡　隆
委　員　枝川　千波
委　員　小林　博
委　員　中村　成一
委　員　野村　宣子
委　員　東田　英輔
委　員　曳地　由紀雄

「事務局」

アカデミー推進部アカデミー推進課長　柳下　幸一
アカデミー推進部観光・国際担当課長　富永　玲子

○水越会長:事務局と相談したが、推進計画の評価について総括的な評価が必要と考える。本日皆さんの意見を伺ったうえで、それぞれの分野の学識経験者が総括を行い、私が全体の総括を書く。分量はそれぞれＡ４一枚程度、千字弱とする予定。よろしいか。

（異議なし）

○水越会長:生涯学習分野から、事務局の素案について委員の意見を伺う。
○桝田委員:生涯学習一日体験フェアの事業としての主眼は相談ではない。相談事業については、「取り組まれたい」というよりは「努力されたい」くらいの表現で良いのでは。
○水越会長:フェアは相談体制のコアではないということか。
○柳下課長:相談機能が十分でないことは確か。今はフェアでも相談に乗っていただいているということを書かせていただいた。
○水越会長:フェアはやってる、機能はある。でも相談体制を充実させていくという書き方

にする。それでは「３　区民・団体の主体的な活動の支援」についてはいかがか。
○桝田委員:地域文化インタープリターは文の京地域文化インタープリター。表の順番は「文の京地域文化インタープリター」「文の京生涯学習司」「文京アカデミアサポーター」にするべき。
○水越会長:「文の京」を追加、表の順番を変えること。
○桝田委員:「活躍の場の確保が課題」となっておりというのは課題ではないと理解している。義務付けても前へは進まない、「重要だ」くらいの書き方でいいのでは。
○野口委員:推進計画のトーン、表現と合わせないといけない。推進計画には「活躍の場を充実させる」となっている。推進計画を超えても、骨抜きになってもいけない。
○水越会長:人材の活動の場が広がり、活躍されることは望ましいは削除して「引き続き努力しましょう」というぐらいの表現にするか。
○桝田委員:サポーターは完全に役割が決まっている。インタープリターは今回森鷗外の件で活躍している。学習司は活躍の場はあるけど、能力等の要因で、そこに入っていけない人がいるとうこと。
○水越会長:学習司は資格はあるけど、場に入っていくところが課題ということか。
○久松副会長:「一方で資格取得者が活動の場を自ら作り出していくよう促していくことも必要である」というのは言いすぎで、場はある、だから参加を促していくことが必要。前の方は多少表現を変えるだけでいいか。
○桝田委員:よろしい。
○柳下課長:文言を整理させていただく。
○水越会長:それでは「Ⅱ　スポーツの分野」に入りたい。
○曳地部長:「情報の一元的な管理」ということが言われているが進捗していないので入れた上で整理した方がいい。
○水越会長:他の課題にも関わるので私も総括で取り上げたい。一元的管理というとき、区の方が考える際に、一つのホームページに全てを集めるという考えを取りがちだが、あちこちでバラバラにマッシュルームのように出てきた情報をまとめて、最終的には一つに見えるということが大事。一個のホームページに全ての部署の情報をまとめることは不可能。ボランティアがやっていることその他を一個にまとめようとすると広報がパンクする。労力がかかるうえ、担当者がいなくなると一元管理したはずのホームページが使われなくなる可能性がある。
○枝川委員:一元的という意味では相互にリンクしているのがいいのではないかと思った。文京区はかなり情報発信している。
○水越会長:個別分野の問題でもあるが、全体に関わるので反映していきたい。
○野口委員:計画にはきっかけづくりのところに体験教室等が入っている。きっかけづくりと環境づくりの線引きがあいまいになっている。推進計画に照らすと、きっかけづくりのところにウォーキング等の間口の広いものが足りない。

〇青木委員:スポーツ基本法の改定で、推進計画と意味合いが違う部分がある。新しいスポーツ基本法に則った形で見ているのではないか。その視点は子ども、お年寄りをどうしたら参加を促したらいいか。見るスポーツの中には地域の中でトップアスリートと育てるというものも入ってきている。

〇水越会長:推進計画の枠組みで言うと、配置の問題がある。事務局で検討いただきたい。54 年ぶりの国体という表現は強すぎる。トーンを押さえた方がいい。国体、五輪のことはあまり議論になっていない。指摘にとどめたほうがいい。

〇水越会長:一層取り組むというよりは、ＰＲを有効にやってくれとか、言い方を工夫した方がいい。

〇青木委員:五輪招致というよりはオリンピックムーブメント。招致活動ではなく、オリンピックに関する取組みを通じて学ぶという趣旨なので、招致するという趣旨ではない。

〇水越会長:五輪をきっかけとしてスポーツに取り組む人を増やすくらいの表現で。

〇曳地部長:計画では環境づくりに国体は入っている。国体を通じて地域交流の活性化を図るという文脈で環境づくりに入れた方がいい。

〇青木委員:実際国体のために施設整備がなされた背景がある。

〇水越会長:スポーツが苦手な方や高齢者の参加を促すというのは、きっかけづくりに入れることがありうる。環境づくりでは五輪招致等が入る。入れ替えをお願いする。

〇小林委員:「今後の展開に期待する」という表現が多い。期待するというのは評価なのか。

〇水越会長:そこはもっと頑張れということをクリアに言うべき。

〇枝川委員:**委員の意見**シートには否定的評価が出てきている。もう少し変えた方がいい。

〇水越会長:次は文化の分野別目標について検討する。

〇野口委員:「統合的な情報発信、デジタルメディア、ソーシャルメディア等による情報発信にも一層取り組まれたい。」とあるが、それができているのか明らかにしないまま書いてしまうと今後に評価を活かしにくい。また森鷗外の事業が突出しているという書き方になっている。かなりやったと強調した上で突出したと言った方がいいのではないか。

〇水越会長:まだ情報がバラバラに見えてしまうので一元的にやりなさいよ、という言い方がいいと思う。突出しているというのは委員の意見に表現があったと思われるが、集中して行ったくらいの表現でいい。

〇曳地部長:鷗外生誕１５０年事業があって鷗外関連事業に集中したという書き方がいいのではないか。

〇水越会長:館ができたことが大きい。館ができたことを一言入れて、１５０周年に因んで取り組んだという文脈で書かれるといい。

〇枝川委員:課題と対応の方向は、150 年記念事業が本格的に始まり、その後何か委員の意見を入れていただけるとよい。たとえば若年層を対象とした取り組みを入れる等。今後は文化芸術全般に渡って幅広い対象者を含め、バランス良い事業展開をというような。

〇水越会長:事務局は以上の意見を加味していただければと思う。

○野口委員:生誕 150 年を活用したとポジティブに言えるはずなので、「バランス良く」と薄めるのではなく、他にも文人がいるからという言い方がいいのではないか。
○水越会長:野口委員の言うように、鷗外の取組を薄める必要はない。それでは観光分野に入る。
○白井委員:文人銘菓だけではなく、グッズも作っている。売上は大きい。全国の土産品の金賞にも入っている。それを入れていただけないか。
○富永課長:既存の土産品は導入時には区から補助金が出ていたという事情はあるが、現在では観光協会の事業。従って載せ方については考えさせていただきたい。グッズが好評というのは担当としても認識している。
○野口委員:大きく文京ブランドという中で例えばお菓子ということなのであって、これだけ書くと手土産を開発することにだけ興味を持っていると狭くとらえられる。文京ブランドの取組の中で、遡れば土産品があるが、23 年度については文京ブランドの構築という取組みの中ではお菓子づくりがあったという表現にしたら良いのではないか。
○水越会長:私もそのように思う。この抽象度で文人銘菓が出てくると違和感があるので少し修正していただきたい。
○水越会長:ＭＩＣＥに関して、東大だけが唐突に出てくる。区内にはたくさん大学があるので東大に限らなくてもいいのではないか。
○松本委員:東大が数で圧倒的なので、私の意見として東大と書いた。
○水越会長:「大学など」くらいの表現でお願いしたい。
○枝川委員:「まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出」の課題は「十分とは言えない。」とあり、これは厳しい評価で他とトーンが合わないのではないか。
○水越会長:ある程度表現の仕方を統一していただきたい。
○水越会長:Ｖの国際交流分野について討議する。
○久松副会長:「新たな海外都市交流」の前に「東アジアにおける」と入れることもできると思うので検討されたい。
○野口委員:「区民の国際理解を進めるには、外国人と触れ合える機会を多く設定することが最も効果的であり」と書いてあるが、「最も」というところがかなり断定的な印象だが、計画には最重要だとは書いてない。
○久松副会長:現状においては様々な対策の中で残された課題として、外国人と触れ合える機会を多く設定することがあるということなので、理論的にそうだということではない。「最も」というのは除いていいと思うがいかがか。
○水越会長:経験的に触れ合う機会の設定が効果的だと思うが、私も「最も」は除いていいと思う。「外国人と触れ合える機会」というのは「触れ合う機会」とするか「触れ合うことができる機会」として欲しい。
○水越会長:最後に「Ⅵ　分野別横断」について討議する。
○久松副会長:平成 24 年度についてはここにもう一度森鷗外が出て来ると思うが、25 年度

事業計画はあるか。

〇柳下課長:25 年度も分野横断的に連携してやっていくことになるが、森鷗外記念事業のような大掛かりな事業計画は無い。

〇久松副会長:こちらは評価なので期待していてもいいが、事業をやらないということだと平仄が合わないと思うが。

〇柳下課長:文京地域学という意味では、史跡めぐりは歴史館事業として実施し、文京区ゆかりの人が残した資料や史跡を見て・ふれて・学ぶということについても実施していく。

〇水越会長:平成 23 年度は森鷗外、平成 24 年度も森鷗外、そもそも横断プロジェクトというのは森鷗外のようなビッグプロジェクトをやるというイメージだが。

〇野口委員:鷗外１５０年は与えられた機会だったが、25 年度以降は意図的に機会を設定していくべきだ。

〇柳下課長: 25 年度、26 年度も文京地域学という切り口で分野横断的に事業を実施する考えである。

〇水越会長:事務局による修正と全体総括を学識経験者にやってもらうことになる。最後に言っておきたいことはないか。

〇野村委員:こういう情報をこういうメディアで流してアクセスしている人だけを対象としますなのか。興味がないという人たちは対象としないという考え方なのか。

〇水越会長:重要な課題だと思う。各分野でも今まで関わっていない人に参加して欲しいという考え方になっているけど、肝心なところでできてない、十分な態勢じゃないというところはあるので、応援しつつお願いしたい。それから、委員から、事業がよくわからない、ということがあったが、開催時期を早くして全体のヒアリングするような会を設けるべきだ。会の形式と開催時期については総括で書いていくことにする。